

分野別市民意見交換会

【福祉文教委員会】

■ 高山赤十字病院・久美愛厚生病院・高山市医師会との分野別市民意見交換会



高山赤十字病院

福祉文教委員会では、飛騨圏域地域医療協議会の設立を受け、市内医療の現状と課題を把握し、将来に向けて持続可能な地域医療体制を検討するため、高山赤十字病院、久美愛厚生病院、高山市医師会の3団体と分野別市民意見交換会を行いました。

地域の中核病院である高山赤十字病院と久美愛厚生病院からは、共通する課題として「医師・看護師等の人材不足」「急性期医療への集中」「病床再編の影響」「物価高騰による経営の難しさ」が挙げられ、診療科の重複や、医師が常勤していない診療科があり、救急対応や入院受入れの体制維持が大きな負担になっている



久美愛厚生病院

現状が示されました。また、入院患者の高齢化や重症化が進む中、急性期治療後の圏域の受け皿が減少していく見込みであることから、地域全体で回復期・在宅期へと円滑に移行できる仕組みづくりの必要性が共有されました。今後は両院が役割分担を進めつつ、救急医療・急性期医療を共同で支える体制の構築が課題となることが共有されました。



高山市医師会

次に、市医師会とは、地域医療を支えるクリニックの現状について意見交換しました。市内のクリニックは、風邪や腹痛など入院の必要がなく帰宅可能な軽症の患者を身近な所で診療していただいているほか、退院後のフォローや慢性疾患患者の管理、在宅医療に欠かせない存在ですが、医師の個人経営がほとんどで高齢化が進み、後継者不足が深刻化しています。また、診療報酬の伸びを上回る諸経費の高騰が経営を直撃し、苦慮しているクリニックの現状も示されました。こうした状況が続けば、地域で必要な医療を守り続けることが難しくなるため、病院・診療所・行政が連携し、持続可能な地域医療の仕組みを構築していく重要性が指摘されました。

意見交換会を通じ、医療機関が単独で課題を抱えるのではなく、行政が積極的に関わりながら「地域で支える医療」へと転換していく必要性が改めて確認されました。委員会としても、今回の意見交換を今後の調査研究や政策提言につなげていきます。

【産業建設委員会】

■ 高山市農業委員会との分野別市民意見交換会

産業建設委員会では、令和7年10月7日に議会へ提出された「令和8年度高山市の農業施策及び予算編成についての意見書」に基づき、今後の高山市の農業について高山市農業委員会との意見交換会を行いました。

出席された農業委員会の役員の方々からは、機械導入支援等の助成制度の拡充への要望、農地保全の現状、外国人研修生の雇用についてなどの意見や課題をお聞きました。

委員からは気候変動の影響、獣害対策、後継者不足、米政策、担い手農家の高齢化、農地保全、堆肥の有効活用などについて質疑を行い現状等を伺いました。意見交換会でいただいたご意見を調査研究に活かしていきます。

